

(別紙2-1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成22年1月13日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4271700124		
法人名	医療法人 玄州会		
事業所名	グループホームみのり		
所在地	〒811-5132 長崎県壱岐市郷ノ浦町東触字平 1010 番地 1		
自己評価作成日	平成21年11月4日	評価結果市町受理日	平成22年2月1日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 URL	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4271700124&SCD=370
--------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 医療・福祉ネットワークせいわ
所在地	〒840-0015 佐賀県佐賀市木原二丁目 6 番 5 号
訪問調査日	平成21年11月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

運営方針
① ゆったりとした生活：入居者各自の生活ペースに合わせる。
② 楽しく：入居者と共に各種行事や趣味活動に取り組み、毎日の生活の中で生きがいづくりができるように、楽しい憩いの場づくりをする。
③ 自由に、ありのままに：入居者の自己決定権を尊重し、入居者が生活の主体となりその人らしく生活していけるよう、できる限り入居者の希望や要望を取り入れたケアをする。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

玄州会グループで複数の関連事業所がある利点を生かし、持ちうる機能を相互に活用し入居者が快適でさらなる自立を目指す支援を組み立てられています。具体的にはデイサービスの車両の日中借用や、老人保健施設でのリハビリへの参加などが挙げられます。また、かかりつけ医との連携もなされており、健康状態の情報交換はご家族へも迅速になされています。日頃の支援においても、運営方針に基づいて入居者の生活習慣に合わせた支援が実践されています。ケアマネジャーを中心に現状に満足せず、より良い支援の提供に積極的に取り組まれています。
--

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営方針を掲示し、ケアプランから日頃のケアにいたるまで実践を心がけている	運営方針を「ゆったりとした生活、楽しく、自由に・ありのままに」と掲げ、入居者の生活のペースに合わせ生きがいを感じられる生活の中、自己決定を尊重して生活の主体となるその人らしさを目指す実践に取り組まれています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	ドライブや遠足などを実施し地域とのかわりをもつようにしている	車椅子の方も含め、地域のイベントへ出かけたり、法人の夏祭り等の行事へ地域の方が多数参加されるといった交流がなされています。また、事業所への演芸披露の訪問なども受けられています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「認知症の家族の会」の見学や会議への参加を行っている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に家族会を兼ねての運営推進会議を実施している。	現在は、年に1～2回のペースで開催されています。内容としては、食事会と同日開催されるなど参加しやすい工夫が見受けられます。家族とも活動を通して、スタッフと親しみを感じ情報交換しやすい関係が築かれています。	開催頻度については是非、2ヶ月に一回を実現されるよう今後の取り組みについて期待します。また、参加者については、グループホームについて知見を有す方を加えられることが求められます。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	広報誌の配布をし、事業所からの情報提供を行っている。	広報誌を年3～4回渡すことで情報提供をしている状況で、連携によるサービスの向上には至っていません。	市町村担当者と事業所のサービスについての課題の共有を図り、課題解決に向けて協議するなどの取り組みを期待します。

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束はしていない。</p>	<p>玄関は普段鍵はかけられておらず、必要な状況時のみチャイム利用のうえ施錠されています。その他身体拘束についてのマニュアルも整備されており、個室窓の開放制限についても家族への説明・同意を交わされています。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>入浴や更衣などの際に全身状態の把握などを十分に行っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>利用対象の入居者がいない。今後必要性が出てくれば、併設施設の相談員と連携をとっていく。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居前に十分説明を行い、変更時は再度説明している</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の意見などは聞いているが、行政や地域住民の意見を反映できていない。</p>	<p>家族より入居者の様子をより知りたいとの要望があり、広報誌に写真などを掲載されるようにされた事例などが確認できます。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回のミーティングを実施している</p>	<p>日頃においてのみでなく、月1回のミーティングの際にスタッフからの要望、意見の聴取をされています。実際に研修を受けた際の要望に応じて研修計画を立てられていることが確認できます。</p>	

12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	パート職員の増加により勤務状況の改善を行った。		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	施設見学や研修などを多く設け、自己目標達成のためにやりがいある就業環境の整備を行っている。		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	併設施設との委員会などに参加。他部署研修実施で自らのサービスを振り返ることをしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	入居前の面談時に本人の話を受けている		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	入居前の面談時に家族の話を受け、またケアマネ等からの情報収集を行っている		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	家族の意見から外泊を取り入れたり、外出を取り入れたりしている。		

18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の趣味などを活かせるような工夫(園芸や農作業)をしている。買い物や料理作りにも参加。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係を保つ意味でも、外出(散髪や買い物)を取り入れている。また喜寿米寿祝いに遠方の家族がこられた時は、ゆっくり家族水入らずの場を設定した。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	混乱を防いでゆっくり話ができる雰囲気づくりを心がけている。また、馴染みの場所へのドライブなどを心がけている。	馴染みの美容院を利用されたり、帰省希望のある方にはスタッフが同行して自宅へ行くこともある。また、以前からの知人が面会に来られるケースもあり、その際は、ゆっくりと自室や居間で過ごされています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員がソファなどに一緒に座って過ごしたり、同じ作業をしてもらったりしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などで中断した場合は状況把握をかね、面会等に出向いている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	各々の希望をできるだけ取り入れるようにしている	各入居者に合った形でのコミュニケーションをとるように心掛けるとともに、表情やしぐさ、行動パターンなどからも、得た様子は必ず「看・介護記録」に記し、必要に応じケアプランにも生かされています。	

24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に話を聞いたり他のサービス利用時の状況などの把握をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	顔色や、食思、ADLの把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状態の変化によって家族を含めた対応をし、不安の除去に努めている	担当制ですが、その他のスタッフの気づきも全スタッフで共有し、家族から聴き取り得たニーズも含めて支援計画は作成されています。計画は、家族の同意を得て決定され、2～3週間でカンファレンスが行われています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンスや申し送り時に個々の対応について話し合い共通のケアを実践している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設施設を活用し、各々のニーズに対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベント行事等に可能な限り参加している。婦人会の来所や併設施設の行事参加、隣接託児所との交流などを行っている。		

30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設クリニック看護師の状況把握や変化があった場合は早めの報告をし受診をしている。	基本的には家族とスタッフ共に通院同行されていますが、スタッフのみで同行した場合は、その都度に家族へ電話にて状況報告がなされています。またご希望によっては、往診も受けられています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々観察を行い気づきなどは随時報告している。また管理者(看護師)による状態把握実施あり。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時情報提供を行っている。また病院や家族からの要請で病院へ出向き食事介助について情報交換した。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人と家族意思を交えての面談を実施中。定期的に職員間で意見交換している	看取りについて、方向性を固めつつある段階であり、まだ書面にまとまってはいない状況です。しかし、看取りを行なう方向での考えであり、スタッフ間の意識も研修を受けるなどして高まりつつあります。	入居者及び関係者に対し、事業所としての指針を明文化した上で、意志の確認の重要性が問われています。話し合いの結果は記録に残し、入居者を含めた関係者の方針の共有に役立てられることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回心肺蘇生研修の実施。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練実施。	火災想定訓練は夜間想定も含めて定期的開催されています。しかし、地震や風水害対策は事業所の課題として把握されています。	避難時の必要品の準備を再度点検されるとともに、地震や風水害などを含めた様々な災害対策を期待します。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	否定的な言葉を使わないよう、また本人の思いを十分聞くよう心がけている	居室へはノック・応答後の入室を厳守し、言葉かけには否定的な言葉を使わないようスタッフ間で常に注意され、「尿・便チェック表」においては傍目に理解されないよう暗号化されるなどの配慮がなされています。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の機会を多く持つことで利用者本位のケアに努めている	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	意思疎通困難な方には表情や頷きなどからその人のペースを大切にしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせた衣替えの支援をしている。美容室まで出かけるケースもある。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	能力に応じて買い物から調理、配膳、片づけまで食事全体を楽しめるように支援している	入居者の希望も聞きその日毎に献立を立てられています。栄養価については月に1度同法人の管理栄養士がチェックされ管理されています。また、食材購入や、できる工程の調理には入居者も参加されています。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の記録実施	

42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日3回の口腔ケア実施		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	昼間はショーツ、夜間はパンツなど自立支援している。また、定期的なトイレ誘導を実施	日中は、極力ショーツを着用されるようにし、入居者それぞれの排泄パターンを把握した上で、お一人おひとりに合ったトイレ誘導で座位での排泄感覚を維持されるよう支援されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を心がけ、御茶やゼリーなどで補給している。また外へ散歩するなど実施。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は基本的に午前中だが、希望にあわせた入浴をしている。	入浴については、入居者の希望される時間に午前でも午後でも入浴することができるようになっています。脱衣所にも暖房があり、浴室には機械浴も準備され、おひとりお一人に合った入浴支援がなされています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転傾向の入居者には昼間の屋外活動を取り入れている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各職員で薬の内容を把握確認している。変更時も同じ		

48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>カラオケで歌ったり、読書、草取りなど個々の楽しみごとの支援をしている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>散歩の声掛け、買い物、ドライブなどを実施</p>	<p>車椅子の方も含め気候の良い季節は近所への散歩や買い物へ出かけられる機会も多く、同法人の車両を利用し、ドライブへも出かけられています。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>事業所預かりの現金はない。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>家族から便箋封筒を渡されている利用者がいる。また郵便が着たら返事を書いてみてはどうかと促したりしている。携帯電話所持者あり。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>壁に折り紙で季節の花を飾ったり、年中行事の催しをしている。</p>	<p>法人内で美化委員を立ち上げられており、担当職員を中心に常に快適な室温や清掃、消臭を心掛けられています。部屋の中も壁面飾りやひな人形、干し柿などで季節が感じられるように工夫されています。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ソファに気の合う利用者同士一緒に座っていただく。また、食事テーブルについても同じ</p>		

54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の趣向に合わせて本を置いたりテーブルをおいたりしている	居室への持ち込みは特に制限を設けられておらず、自由となっており、仏壇やタンス、鏡など思い思いの馴染みの品が持ち込まれています。居室の掃除、換気も毎日行われています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ADL自立している方には掃除などにも参加してもらっている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
		○	3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
		○	3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		○	2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない